

シロイルカの調餌作業を受託して ～水族館と複数就労継続支援事業所の挑戦～

- 山本 直紀 (社会医療法人清和会 就労継続支援A型・B型事業所「はまかぜ」通所サービス課長)
佐々木 裕介 (社会医療法人清和会 就労継続支援A型・B型事業所「はまかぜ」)
岡崎 博子 (社会医療法人清和会 就労継続支援A型・B型事業所「はまかぜ」通所サービス課)
新家 望美 (社会医療法人清和会 就労継続支援A型・B型事業所「はまかぜ」通所サービス課)

1 はじめに

島根県浜田市・江津市にまたがる島根県立しまね海洋館アクアス（以下「アクアス」という。）は中四国地方最大級の水族館であり、西日本では唯一シロイルカをみることが出来る施設である。また毎年多くの観光客が訪れる島根県西部最大の観光施設である。

アクアスの主役であるシロイルカの調餌作業（エサの準備）について、島根県障がい者就労事業振興センターの仲介で、2021年11月より、地元の3つの就労継続支援事業所で受託した。「水族館」でのこのような作業を就労継続支援事業所が共同で受託することは初めての試みであり、この活動が始まり2年が経過し、様々なよい効果を得ているため、ここに紹介したい。

2 受託業務の具体的な内容と特徴的な取組

受託したシロイルカの調餌作業は、以下の7つの工程にわけられる。①荷出し⇒②バラし⇒③計量⇒④解凍⇒⑤洗い⇒⑥傷・チェック⇒⑦調餌室の掃除である。シロイルカ4頭分一日当たり約100kgの冷凍魚を扱う。冷凍魚は季節によって異なるが常に数種類を扱い、シロイルカそれぞれに食べる量が異なるため、一頭ずつ計量してバケツに分けていく。凍り固まった魚をバラすのは力を入れすぎると魚が傷んでしまうので絶妙な力加減が必要である。流水で解凍していくが、冬は解けにくく苦勞し、逆に夏はすぐに解けるが今度は傷みが進まないように素早い作業が求められる。傷んだ魚の選別や調餌室の掃除もシロイルカの健康に直結するため、気が抜けない部分である。おおよそ指導員1名、利用者2～3名で2時間程度を要する。

この試みのおおきな特徴は、アクアス側の提案で調餌作業終了後、給餌（エサを与えること）にも同行させていただけることである。給餌はエサやり兼パフォーマンスのトレーニング時間になっており、利用者はシロイルカの様々なパフォーマンスをそばで見て、時には直接エサを与えたり、頭をなでたり、ボール遊びをしたりと触れ合いをもつことができる。シロイルカの生態や飼育について飼育員から直接伺うこともでき、他では味わうことのできない貴重な時間となっている。

3 取組を通して得たもの

(1) シロイルカとのふれあいからの効果

上記の取組から利用者はシロイルカをより身近に感じ興味関心を持ち、やりがいを強く感じる事ができている。

「かわいくて癒される」「責任を感じシロイルカのためにより丁寧に作業をしないとイケないと思う」と癒しと同時に責任に関する発言が多くみられた。

利用者は作業当初からワクワクした期待感を持ちつつも、新たな作業への困難さや動物を育てるための不安もいっていた。そこで作業後は必ず振り返りのミーティングを行い、「素早く正確な作業を行いシロイルカとのふれあいの時間をしっかり確保する」という目標を立てて全員で前向きな取り組みと工夫を行っていった。結果「みんなで早く正確な作業をするために大事な点を申し送る」「次に作業に行く人が困らないように飼育員から教わったことを共有する」などチームに対しても多くの前向きな声が聞かれるようになった。

自分たちが関わったシロイルカが健康を保ち、多くの観客をパフォーマンスで喜ばせている。調餌作業を通して自分たちがその下支えをしているということは、利用者の自負と自己効力感につながっていった。

このようにアニマルセラピーとしての癒し効果はもちろん責任感や意欲、協調性、自己効力感など多くの向上が見られた。

(2) 本物のホスピタリティの体験からの効果

アクアスの作業を受託するまでは当事業所の作業はほとんどが法人内で完結するものであり、外部へ仕事に行くことは稀であった。アクアスの職員は多くの観光客を丁寧な接遇でおもてなしし、生き物への慈愛に満ちている。そのような職員との対話は、本物のホスピタリティを体験でき、自分たちの言動や接遇などを見直すきっかけにもなっている。さらには「アクアスにお礼がしたい」「アクアスで他の仕事もしたい」と感謝の気持ちや新たな希望も芽生えてきている。

(3) 意見交換会からのネットワーク

アクアスと3事業所は半年に1度の意見交換会を行っている。具体的内容は、①作業ポイントや変更点の確認、②事業所側からの要望、③利用者の様子、④今後の活動に向

けて、など多岐にわたっている。各事業所が一緒に作業をすることはないが、この会を通して、この事業の意義やそれぞれの思い・課題を共有することができており、参加者一同の意志疎通の大切な場所となっている。

後述するような様々な活動にもつながっており、最近でも市障がい担当の会議参加や他事業所へ事業参加の呼びかけなども行い、広がりを見せている。

(4) その他の交流や活動による連携

事業開始以降、お互いの施設見学、市長表敬訪問やアクアス・大型商業施設でパネル展示、ナイトアクアス企画での就労体験プロジェクト、ユーチューブ動画の作成と公開、感謝の意を込めて事業所からアクアスへ贈り物を作りプレゼントする、新聞やSNSなど様々な形での報道・発信など多くの交流、活動が行われてきた。単独の事業所ではとてもできない活動であるが、この事業をきっかけに、それぞれの機関が積極的に関わることで実行できたものである。

作業以外でこれだけのうれしい交流が続いており、利用者、職員が一緒に楽しみ、喜びながら参加・協力している。

4 成果

事業所側としては、共同委託や新作業という新たな形に挑戦し、水族館での調餌作業という今までにない新たな業務を得て、一定の成果を上げることができた。利用者に対しては自己効力感が高まり、達成感をもたらすことができた。さらに主体性やチームワークも向上した。また県内最大級の観光施設である「アクアス」職員のホスピタリティを体感することで、自分たちの言動や接遇を振り返る良い機会にもなっている。

アクアス側としては、障がい者の就労支援という新たな試みをスタートさせたことは、人手不足の解消とともに、障がい者の活躍や憩いの場を提供し、新たな地域貢献の形を確立させた。引き続きこのような活動を通して地域での賑わいを創設していきたいとのことである。

この事業を通して地域に新たなネットワークが生まれ、障がい者にとっても地域にとってもお互いをより身近に感じることができる機会が増えたことは最大の成果である。

5 課題及び今後の展望

今後の課題として、受託日数の拡大、福祉事業所同士の交流拡大やバックアップ体制の構築、ペンギン調餌作業の受託などがあげられる。また3事業所以外の参入がなく広がりをみせないことも課題である。

今後の展望としては、このアクアスでの施設外就労をステップアップとして、一人でも多くの障がい者が施設から一般就労につながっていくことを期待したい。

【ユーチューブ公開動画】

しまね海洋館アクアスと複数福祉事業所の連携事例

シロイルカの調餌作業（餌づくり）

《製作》NPO法人島根県障がい者就労事業振興センター

《撮影・編集》合同会社Robse

就労支援B型事業所みんなのデザイン



【連絡先】

山本 直紀

社会医療法人清和会

ヴィレッジせいわ 通所サービス課

就労継続支援A型・B型事業所「はまかぜ」

e-mail : siokaze@sound.ocn.ne.jp